

3 年 次

<p><表現力を培う></p> <ul style="list-style-type: none">○英語Ⅲ※……………3- 1○英語Ⅳ※……………3- 6 <p><看護実践を支える科目></p> <ul style="list-style-type: none">○成人看護学Ⅲ……………3- 12○成人看護学Ⅳ……………3- 19○救急・クリティカルケア……………3- 28○エンド・オブ・ライフケア……………3- 34○小児看護学Ⅱ……………3- 40○老年看護学Ⅱ……………3- 48○精神看護学Ⅱ……………3- 56○在宅看護論……………3- 63○地域包括ケア論……………3- 69○家族看護論……………3- 75○感染看護学……………3- 82○医療安全学……………3- 88○公衆衛生看護学Ⅱ……………3- 94●公衆衛生看護学Ⅲ……………3-100●公衆衛生看護学Ⅳ……………3-106	<p><看護を統合する科目></p> <ul style="list-style-type: none">○災害看護学Ⅱ……………3-111●看護研究Ⅰ……………3-118 <p><看護の実践></p> <ul style="list-style-type: none">●急性期看護学実習……………3-125●慢性期看護学実習……………3-131●母性看護学実習……………3-137●老年看護学実習……………3-143●小児看護学実習……………3-150●精神看護学実習……………3-156 <p>◎通年科目 ○前期科目 ●後期科目 ※選択科目</p>
---	---

区 分 名： 表現力を培う

科 目 名： 英語Ⅲ

(英語名称： English Ⅲ)

【担当教員】 Peter Bryan McCann (マカーン ピーター ブライアン)

【開講年次】 3年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 選択

【授業形態】 演習 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

- To acquire English communication skills essential for the nursing profession.
- For students to gain enough confidence to be able to use what they learn during the course for future work purposes - especially for conversing directly with foreign patients and colleagues.

【学習目標】

Students will be given opportunities to use the language through a variety of practical tasks. They will be introduced to:

- Specialist vocabulary and key grammatical structures.
- Ways to build interpersonal skills for patient relations.
- Listening and speaking exercises in real work situations.

【テキスト】

特になし。教員から資料を配布します。

【参考書】

【成績評価方法】

Students are assessed and given a total score on the following basis:

Final written test: 60% of the total; class participation: 20%; attendance: 20%.

【その他（メッセージ等）】

Students must attend a minimum of two thirds of all lessons, or you will be automatically failed. Please participate fully in class, and don't worry about making mistakes. I'll be happy to answer any questions you have, so please don't hesitate to ask at any time. Let's enjoy the course together!

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	Introduction	Types of Nurse Nursing duties
第2回	U.1) Admitting Patients (1)	Welcoming a patient Checking a patient's identify Describing parts of the body
第3回	Admitting Patients (2)	Using equipment to take patient observations Giving instructions to a patient Taking and recording patient observations
第4回	U.2) Caring for Patients after an operation (1)	Caring for a patient in recovery Returning a patient to the ward
第5回	Caring for Patients after an operation (2)	Talking about pain Checking an IV prescription Using IV infusion equipment
第6回	U.3) Caring for terminally ill patients (1)	Talking about feelings Showing empathy Discussing pain relief
第7回	Caring for terminally ill patients (2)	Using palliative care pain assessment Telephone skills: managing a patient enquiry Using patient information leaflets
第8回	U.4) The District Nurse (1)	Describing your nursing role Describing wounds Helping a patient with activities of daily living

第9回	The District Nurse (2)	Managing embarrassing moments Using a district nurse prescription sheet Reading medication labels
第10回	HALF-COURSE REVIEW	
第11回	U.5) Helping patients with rehabilitation (1)	Discussing a patient's progress Helping a patient with meals Explaining safe swallowing
第12回	Helping patients with rehabilitation (2)	Reassuring a patient before an unpleasant procedure Using a food chart Telephone skills: making a referral
第13回	U.6) Mobilising patients (1)	Helping a patient with mobility aids Getting a patient out of bed Using a slide sheet
第14回	Mobilising patients (2)	Using a hoist Completing a moving and handling assessment
第15回	COURSE REVIEW	

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつせず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	-	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

区 分 名： 表現力を培う
科 目 名： 英語Ⅳ
(英語名称： English IV)

【担当教員】 中山 仁

【開講年次】 3年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 選択

【授業形態】 演習 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

英語のパラグラフ・ライティングの基礎を習得するための演習を行う。具体的にはパラグラフの基本構造と典型的なライティングのプロセスを理解した上で、身近なテーマについて実際にパラグラフを書く演習を行う。

なお、下記の授業内容は使用テキスト、および、授業進度状況によって予定を変更することがあるが、基本的な履修内容に差異はない。また、必要に応じて英文法の基礎力を維持するための演習を行う。

【学習目標】

- 1) 英語のパラグラフと、日本語の段落との違いを説明できる。
- 2) 英語の文章をパラグラフ単位で正確に理解できる。
- 3) 論理展開が明確で、適切な英語表現を用いたパラグラフを書くことができる。
- 4) 必要な英語表現を効率よく調べたり、検索したりすることができる。
- 5) 英語の句読法を正しく使える。

【テキスト】

教室で指示する。

【参考書】

- 1) 語句の意味や用法をじっくり確認したい場合：『ウィズダム英和辞典』（三省堂）、『ジーニアス英和辞典』（大修館）
- 2) 語句の説明と用例が充実した辞書アプリ（iOS版）：ウィズダム英和・和英辞典（第4版／第3版）（物書堂）
- 3) 上記に加え、語句の意味を英語でわかりやすく説明する方法を知りたい場合：
Longman Dictionary of Contemporary English (Longman)
Oxford Advanced Learner's Dictionary (Oxford University Press)

4) 語句のつなぎ方の実例や、表現に適した語句の選択を確認したい場合（オンライン英和・和英辞書）：英辞郎 on the Web（無料）、英辞郎 on the Web Pro（有料）（アルク）

【成績評価方法】

演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合して評価する。

【その他（メッセージ等）】

15回の授業の中で、少なくとも9つのセンテンスから成る1つのパラグラフを作り上げるスキルが段階的に身につくようになるプログラムです。論理的な文や話し方について理解できれば、それを日本語にも応用できます。英語と日本語の「伝える力」を学ぶ数少ない機会を提供しています。

例年受講者は意欲的に取り組んで、自分のことを英語で表現することが楽しいと感じてくれています。その楽しさを実感したい人は受講をおすすめします。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	イントロダクション	Formatting; Process writing
第2回	センテンスとパラグラフ(1)	Topic; Strong/Weak paragraph (1)
第3回	センテンスとパラグラフ(2)	Topic; Strong/Weak paragraph (2)
第4回	トピックとトピック・センテンス(1)	Topic sentence (1); Conjunctions
第5回	トピック・センテンス(2)	Topic sentence (2): Skills to improve topic sentences
第6回	サポート(1)	Supporting sentences (1) (Types)
第7回	サポート(2)	Supporting sentences (2) (Exercises)
第8回	結論	Concluding sentences; Capital letters
第9回	導入	Introductory sentences
第10回	プロセス・ライティング(1)	Process writing (1)
第11回	プロセス・ライティング(2)	Brainstorming; Word maps; Listing
第12回	プロセス・ライティング(3)	Organizing; Review; Editing
第13回	性格描写(1)	Adjectives to describe personalities
第14回	性格描写(2)	Paragraph writing exercise
第15回	推敲のためのスキル	Proof reading; Peer reviewing

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 ② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	— 修得の機会がない
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。 ② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。 ③ 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	△ 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
3)	対人関係	① 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△ 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	① 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。 ② 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	— 修得の機会がない
2. 生涯学習			
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。			
1)	自己啓発と自己鍛錬	① 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。 ② 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	△ 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない

		③	<p>独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。</p>		
		④	<p>自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。</p>		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
<p>自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。</p>					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	<p>人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。</p>	△	<p>修得の機会はあるが、単位認定に関係ない</p>
		②	<p>人々の社会的背景を理解して尊重することができる。</p>		
		③	<p>看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。</p>		
		④	<p>望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。</p>		
2)	チームでのコミュニケーション	①	<p>人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。</p>	—	<p>修得の機会がない</p>
		②	<p>チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。</p>		
		③	<p>チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。</p>		
		④	<p>人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。</p>		

4. 知識とその応用				
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。				
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)	
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	● 基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目	
		③	論理的思考能力を高める科目	
		④	表現力を培う科目	
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	● 基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目	
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目	
		④	看護の基本となる科目	
		⑤	看護実践の基盤となる科目	
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	— 修得の機会がない
		②	看護の実践	
		③	看護を統合する科目	
6. 地域社会への貢献				
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。				

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の 人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考 えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区分名： 看護実践を支える科目

科目名： 成人看護学Ⅲ

(英語名称： Adult Nursing Ⅲ (Acute))

【担当教員】 片桐 和子、菅野 久美、佐藤 菜保子、嶋原 利洋他

【開講年次】 3年次 【学期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義・演習 【単位数】 2単位 【時間数】 30時間

【概要】

急性期にある人とその家族の特徴及び看護師の役割を踏まえ、手術療法を受ける対象やその家族に対する周術期看護について学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

(一般目標)：手術や疾患による健康状態の急激な変化がある人とその家族の身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的側面への影響を踏まえ、健康の早期回復と保持・増進を促す援助について理解する。

(行動目標)：

1. 急性期・周術期看護の特徴について述べることができる。
2. 麻酔や手術による生体への侵襲について述べることができる。
3. 手術を受ける人とその家族の身体・精神・社会・スピリチュアル的側面への影響について述べることができる。
4. 手術室看護師の役割について述べることができる。
5. 手術を受ける人とその家族の特徴を踏まえ、その人の機能回復・合併症予防・苦痛緩和及び家族を含めた精神的・社会的支援のために必要な援助について述べることができる。
6. ドレナージが必要な患者の適切なドレーン管理について述べることができる。

【テキスト】

林 直子, 佐藤まゆみ：成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周術期看護 改定第3版, 南江堂, 2019.

【参考書】

授業時に提示する。

【成績評価方法】

講義・演習への参加度、提出課題、定期試験により評価する。

なお、単位修得のためには2/3以上の出席が必要となる。

【その他（メッセージ等）】

1、2年次で学習した内容を基盤に、発展させていく授業展開となります。しっかり学んだことを復習すると共に、提示したテキストを精読し、疑問点を明確して、授業に臨んでください。また、演習に向けて課題を提示しますので、事前学習を踏まえて演習に臨んでください。

3年後期の実習に繋がる重要な科目になります。疑問点など質問したり、何故そうなるのかの根拠について文献を通して理解を深め、主体的に学習していく習慣を確立していくことが大切になります。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	急性期の概念、急性期の特徴	急性期にある患者・家族の特徴と看護師の役割
第2回	周術期の看護：術前	手術を受ける患者・家族の特徴、術前看護、周術期オリエンテーション、周術期リハビリテーション
第3回	周術期の看護：術前	術前検査とその意味
第4回	周術期の看護：術前	術前アセスメント
第5-6回	手術と麻酔の侵襲	侵襲（開腹・開胸、鏡視下、ロボット支援手術の影響）、手術や麻酔の侵襲による神経・内分泌・代謝反応、サードスペース、サイトカインによる生体反応、SIRS、Mooreの回復過程
第7-8回	周術期における麻酔法	全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、麻酔を受ける患者の身体への影響と観察ポイント
第9回	周術期の看護：術中	手術室看護師の役割、術前訪問、手術室空調管理とゾーニング、手術部位感染予防、器材の消毒法、手洗い法、術中体位、体温管理など
第10-12回	周術期の看護：術後	術後の患者・家族の特徴、術後の機能回復・合併症予防（後出血とショック、縫合不全、深部静脈血栓症、呼吸器合併症など）、苦痛緩和、心理・社会的支援
第13-15回	手術により健康状態	肺切除術を受ける人の看護：開胸術により呼吸機

	が急激に変化する人の看護（１）	能に変化する患者及び家族の特徴、気道の清浄化、呼吸機能の維持・改善のための援助、ドレナージ、肩関節拘縮予防
第16-18回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（２）	胃切除術を受ける人の看護：胃切除後障害に対する予防や対処、食スタイルの変化に伴う辛さ・食の楽しみを考慮した援助、縫合不全の早期発見と対処、
第19-20回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（３）	大腸切除術を受ける人の看護：排泄に伴う羞恥心や自尊心、性機能障害を考慮した援助、イレウス予防・改善のための援助、ストマケア
第21-22回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（４）	乳房切除術を受ける人の看護：上肢リンパ浮腫予防・緩和、関節可動域障害の予防、ボディイメージの変容に対する援助、セクシュアリティに関する援助
第23回	手術により健康状態が急激に変化する人の看護（５）	手術体験者の語り 入院中に看護師に依頼したいこと、退院後の生活上の困難点、がんサバイバー
第24回	ドレーンを挿入している人の看護	ドレーンの目的・方法・種類、ドレーンを挿入している人の特徴及び援助
第25-27回	周術期の看護：演習	ドレーン管理の実際
第28-30回	周術期の看護：演習	術後患者のアセスメント

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 ② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
2)		① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○ 同上

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示すことが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基礎となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	-	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区分名： 看護実践を支える科目

科目名： 成人看護学Ⅳ

(英語名称： Adult NursingⅣ)

【担当教員】 井上 水絵、片桐 和子、関野 瑞希、佐藤 菜保子、他

【開講年次】 3年次 【学期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 演習 【単位数】 1単位 【時間数】 15時間

【概要】

成人期にある健康障害をきたした事例を通し、年齢や発達段階における特徴、身体的・心理社会的特性を総合的に理解し、看護過程の展開を通じて必要な情報を整理し、アセスメント技術と個別的な看護計画立案方法を学び、必要な看護技術を習得する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

(一般目標)

グループワークを通じて、成人期にある健康障害をきたした対象者の生体機能の障害とそれに伴う心身の反応、社会生活、家族に及ぼす影響を理解し、回復・適応への援助技術、および患者教育のための技術を説明することができる。

(行動目標)

1. 成人期にある健康障害をきたした対象とその家族を包括的にアセスメントする方法を実施することができる。
2. アセスメントを統合して対象の全体像を理解し、看護上の問題を明らかにすることができる。
3. 明らかにした看護問題に対して看護目標を設定し、個別性を踏まえた期待される結果を考え、看護計画を立案することができる。
4. 看護計画では、看護目標および根拠に基づいた看護技術や援助方法を選択し、具体的な内容を考えることができる。
5. グループワークや全体発表を通して、成人期にある健康障害をきたした対象の看護について自分の考えを述べることができる。

【テキスト】

必要に応じて講義の中で紹介する

【参考書】

看護過程展開ガイド：任 和子、プチナースブックス、照林社

【成績評価方法】

出席状況、講義後のアンケート提出、グループディスカッション、個人・グループワーク課題提出物により総合的に判断する

【その他（メッセージ等）】

成人期にある健康障害をきたした対象者の事象をアセスメントし、合併症の予防と早期の回復、苦痛の緩和、そして、対象者とその家族にとって、病気とともに生きることについて学習します。対象が、日常生活の中に療養行動を組み込みながら、その人らしい生活・人生を送るとは、どういうことなのか、また、そのことを支援していく援助方法について個人・グループワークを通じ学習し、実習に繋がられるよう主体的に取り組んでいきましょう。

* 講義内容・予定は変更することがあります。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回 5月21日	<ul style="list-style-type: none">全体オリエンテーション成人慢性期及び急性期の看護過程の展開と記録の活用方法事例紹介(慢性期)事例紹介(急性期)	<ul style="list-style-type: none">演習の目的、方法、日程、学生配置、課題提出方法の説明看護過程の展開とアセスメント方法<ul style="list-style-type: none">① 【慢性期】 ゴードンの機能的健康パターン11の枠組みを用いたアセスメント② 【共通】 全体像の理解と関連図作成看護過程を展開するための成人看護学実習記録用紙の活用方法・書き方(基本情報用紙、アセスメントシート(ゴードン)、問題リスト、看護計画用紙)
第2,3回目 5月21日		<p>【慢性期】</p> <ul style="list-style-type: none">①糖尿病教育入院患者の看護事例、②慢性腎不全の血液透析患者の看護事例 <p>課題：個人ワーク</p>

		<p>1) 動画視聴</p> <p>2) 看護記録作成（基本情報用紙、アセスメントシート、問題リスト、看護計画の作成）</p> <p>[急性期]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ①胃切除患者の事例、②肺切除患者の事例 ・ ②課題：個人ワーク <p>1) 動画視聴「周術期看護：術後看護」</p> <p>2) 7/2 グループワークまでに、事例を基にアセスメント（・問題立案シートを作成、関連図作成⇒課題提出期限：7/2 23:59</p> <p>3) 7/2 のグループワークで、問題の優先順位決後、7/16 のグループワークに向け、#1 に対する看護計画を立案⇒課題提出期限：7/15 23:59</p>
<p>第 4-6 回 6 月 4 日</p>	<p>4 回目：個人ワーク</p> <p>5・6 回目：グループワーク</p>	<p>[慢性期]</p> <p>個人ワークの続き→看護記録作成（基本情報用紙、アセスメントシート、問題リスト、看護計画の作成）</p> <p>[慢性期]</p> <p>グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人ワークで抽出した看護問題、アセスメントを発表する ・ グループメンバーで各自発表した看護問題についてディスカッションし、看護問題の整理を行い、看護問題リストを完成させる ・ 完成した看護問題リストの中から、1つの看護問題を選び（例：優先順位が高い、看護介入の必要性がある等）、その看護計画を作成し完成させる ・ 必要時、指導案、パンフレットを作成する（形式：PPT、Word どちらでも可） *以下をクラスプロファイルに期限までに提出する <p>個人ワークの提出</p> <p>①基本情報用紙、②アセスメント、③看護問題リスト、④看護計画（優先順位第一位のみ作成）</p>

		<p>→ 6/4、8:30 締切り</p> <p>グループワークの提出</p> <p>①看護問題リスト、②看護計画1つ（優先順位高い or 看護介入の必要あり）、③パンフレット 作成時：パンフレット、指導案</p> <p>→ 6/17、8:30 締切り</p>
第7回	発表準備	<p>[慢性期]</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表グループ決定、発表準備 看護問題、看護計画の発表：10分 質疑応答グループは、質問するグループの動画視聴
第8, 9回 6月18日	成果発表	<p>■ 糖尿病教育入院 看護計画発表：2グループ（パンフレット作成時は含めて発表）</p> <p>■ 慢性腎不全の血液透析 看護計画発表：2グループ（パンフレット作成時は含めて発表）</p> <p>→（患者背景の説明は不要）①看護問題リストの発表、②看護問題をあげた理由、③優先順位の根拠、④①の中から発表する看護問題と、特に重要な計画内容の発表、⑤パンフレット作成時、パンフレット発表パンフレット作成の目的、内容、工夫点、ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 質疑応答：7分 教員講評 アンケート記入（6月18日 20時まで）
7月2日 第10-12回	(急性期) 看護過程の展開 (グループワーク)	<p>グループとしての関連図の作成、問題の優先順位の決定：</p> <p>①個人ワークで作成した関連図、看護問題を基に、関連図、看護問題を検討し、グループとして洗練させ、完成させる</p> <p>②グループとして作成した関連図、決定した看護問題を基に、問題の優先順位を決める⇒グループで作成した関連図を本日23:59までにFMUパスポート提出</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題 個人ワーク 7/16 のグループワークに向け、グループで決定した最も優先順位の高い（あるいは特徴的な）問題に対する看護計画を立案する <p>課題提出期限：7/15 23:59</p>
7月16日 第13回 13:30	看護過程の展開 (グループワーク) 発表グループ抽選、発表準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人で作成した看護計画を基に、グループとして看護計画を洗練させ、完成させる。 ・ 胃切除 G：関連図発表 2 グループ選出 看護計画発表 2 グループ選出 肺切除 G：関連図発表 2 グループ選出 看護計画発表 2 グループ選出 ・ 発表 G：FMU パスポートに発表資料をアップ 役割分担、発表の準備 ・ 発表以外 G：発表 G の資料を基に、質問内容検討
第14, 15回	成果発表・質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 胃切除 G： <ul style="list-style-type: none"> ① 関連図発表 2 グループ ② 看護計画発表 2 グループ ・ 肺切除 G： <ul style="list-style-type: none"> ① 関連図発表 2 グループ ② 看護計画発表 2 グループ ・ 教員からの講評 ・ まとめ：本日 17 時までフィードバックペーパー-FMU パスポートへ提出

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		的に示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	同上
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、ス

	とのコミュニケーション	②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		スキルを示せることが単位認定の要件である
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)		①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せるこ

	創造性豊かな看護専門職者	②	人間の理解を深める科目		とが単位認定の要件である
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		<p>⑧ 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。</p>	
--	--	--	--

区分名： 看護実践を支える科目

科目名： 救急・クリティカルケア

(英語名称： Critical Care and Emergency Nursing)

【担当教員】 菅野久美、片桐和子、鈴木学爾 他

【開講年次】 3年次 【学期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 演習 【単位数】 1単位 【時間数】 15時間

【概要】

救急医療およびクリティカルケアにおける生命危機状態にある対象の特徴と看護の役割について学習する。フィジカルアセスメントや救急処置などの基本的知識や技術を修得し、生きる(いのちと生活)を支える救急・クリティカルケア看護について考えを深める。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

(一般目標)

- 1) 救急医療およびクリティカルケアの対象となる人や家族の特徴と体験を理解する。
- 2) 救急医療体制の変遷と現状を学習し、看護の役割を理解する。
- 3) フィジカルアセスメントやファーストエイドなどの基本的知識や技術、態度について理解する。
- 4) 救急医療およびクリティカルケア看護の実際と課題について理解する。

(行動目標)

- 1) 救急医療の現状とその問題を説明できる。
- 2) 救急患者および生命の危機状況にある患者とその家族の特徴を説明できる。
- 3) ファーストエイドとしての一次救命処置：Basic Life Support(BLS)や応急手当について、小児・成人の特徴を理解しその技術を習得できる。
- 4) 災害時の医療およびトリアージの基本的な考え方について説明できる。
- 5) 救急医療および看護の場面における課題について関心持ち、自己の考えを深めてその内容を述べることができる。

【テキスト】

特に指定なし

【参考書】

授業時に提示する

【成績評価方法】

定期試験 60%、授業への参加度 20%、課題レポート 20%で総合的に評価する。尚、単位修得のためには、2/3 以上出席が必要です。授業 30 分以上の遅刻、30 分前の退室は欠席となります。演習は、状況に応じて感染対策を十分考慮した上で行います。

【その他（メッセージ等）】

学生が主体的に考え、最新の知識・技術を修得し、積極的に学びとる授業です。生きる(いのちと生活)を支える看護について一緒に考えましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	救急・クリティカルケア看護の概念 対象となる人の理解①	コースオリエンテーション 救急・クリティカルケア看護の概念 対象となる人の理解 救急医療の変遷
第2回	対象となる人の理解②	救急患者の特徴と対応 ファーストエイド
第3回	救急看護の実際①	ファーストエイドの技術・BLS および応急処置を学ぶ
第4回	救急看護の実際②	小児救急看護
第5回	救急看護の実際③	救命救急センター看護師によるプレホスピタルケア、フライトナースの役割、院内救急
第6回	救急看護の実際④	災害時の救急看護およびトリアージ
第7回	ICU 看護の実際①	クリティカルケア看護の実際 呼吸・循環を中心とした全身管理と看護ケア
第8回	ICU 看護の実際②	クリティカルケア看護の実際 呼吸・循環を中心とした全身管理と看護ケア
第9回	ICU 看護の実際③	クリティカルケア看護の実際 重症集中治療看護の専門性
第10回	演習	BLS 演習および事例検討
第11回	演習	BLS 演習および事例検討
第12回	演習	BLS 演習および事例検討
第13回	GW 発表	GW 発表
第14回	救急・クリティカルケア看護に関する法律や倫理	救急・集中ケアにおけるエンドオブライフケア、関連する法律や倫理的課題
第15回	救急・クリティカルケア看護のまとめ	救急・集中ケアにおけるエンドオブライフケア、関連する法律や倫理的課題、まとめ

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	実践の基盤となる知識と技術を統合させた実践の修得の機会がある。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識と技術

	もつ看護専門職者	② 倫理性を高める科目		を示せることが単位認定の要件である。
		③ 論理的思考能力を高める科目		
		④ 表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	① 社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		② 人間の理解を深める科目		
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④ 看護の基本となる科目		
		⑤ 看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	① 看護実践の応用となる科目	△	実践の基盤となる知識と技術を統合させた実践の修得の機会がある。
		② 看護の実践		
		③ 看護を統合する科目		
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である
		② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

区分名： 看護実践を支える科目
科目名： エンド・オブ・ライフケア
(英語名称： End-of-life care)

【担当教員】 佐藤 菜保子、井上 水絵、横山郁美、和田 久美子、齋藤 史子、他

【開講年次】 3年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

看護師には終末期にある患者とその家族についてのケアが求められている。この科目においては、終末期にある患者と家族の理解を深め、その人らしい生を全うできるような支援を行うための看護について学習する。また、人間の生死について自分なりの考えを深めるとともに、他の人の考え方や価値観を尊重できる態度を養う。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

(一般目標)

1. 終末期にある患者とその家族が直面する諸問題や体験について理解する。
2. 終末期にある人の看護を実践する上で必要な知識、技術、態度について学習する。

(行動目標)

1. 終末期医療に関する概念（ターミナルケア、ホスピスケア、緩和ケア）について説明できる。
2. 死に向かう人々の心理過程と悲嘆プロセス、死別後の家族の悲嘆プロセスについて説明できる。
3. 終末期にある患者とその家族が体験する身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな苦痛を説明できる。
4. 終末期に出現する症状と症状緩和の方法について説明できる。
5. 終末期にある人の看護における看護師の役割を述べることができる。
6. 終末期にある患者とその家族を支えるための保健医療システムや社会資源について説明できる。
7. 学習のプロセスを通し自分の死生観について述べることができる。
8. 終末期にある人の看護に関する文献を読みテーマをあげて自分の考えを記述することができる。

【テキスト】

指定しない

【参考書】

1. 梅田恵、射場典子編集：緩和ケア 大切な生活・尊厳ある生をつなぐ技と心. 南山堂. 2011
2. 鈴木志津枝、内布敦子編集：緩和ケア・ターミナルケア看護論. ヌーベルヒロカワ. 2011
3. 佐藤禮子監修：絵で見るターミナルケア 人生の最後を生き抜く人へのかぎりない援助. GAKKEN. 2010
4. 嶺岸秀子、千崎美登子編著：がん看護の実践 1 エンドオブライフケアのがん緩和ケアと看取り. 医歯薬出版社. 2008

【成績評価方法】

出席、課題、レポートにより総合的に判断する。

最終レポートの提出は以下のとおり、FMU パスポートに提出すること。

※形式等の詳細は授業内で指示します。 8/5 9:00 締め切り

【その他（メッセージ等）】

人間の生や死について学ぶことを通して自分なりの死生観について考えを深めて下さい。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回 6/10（月）佐藤	終末期医療に関する概念・歴史・現状	緩和ケアの歴史、定義、死生観、わが国の緩和ケアの現状、様々な場における終末期ケア
第2-3回 6/17（月）井上	終末期にある患者と家族の看護（1）	終末期における症状緩和と看護
第4-5回 6/24（月） 横山	終末期にある患者と家族の看護（2）	トータルペイン（全人的苦痛）、死にゆく人の心理・悲嘆経過、家族の悲嘆経過とそのケア
第6-7回 7/1（月）井上	終末期にある患者と家族の看護（3）	我が国および海外の終末期ケアの実際
第8-9回 7/3（水） 和田・齋藤	終末期にある患者と家族の看護（4）	小児期における終末期看護 老年期における終末期看護

第 10-11 回 7/8 (月) 横山	終末期にある患者 と家族の看護 (5)	看護師の役割 (患者・家族・遺族ケア)、看 護師への教育
第 12-13 回 7/10 (水) 千葉	在宅療養患者およ び家族の終末期に ある人の看護	在宅緩和ケア・在宅での緩和ケアの実際
第 14-15 回 7/22 (月) 金田	終末期にある患者 と家族の看護 (6)	緩和ケア病棟におけるチーム医療

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○ 基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。	
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての	

			責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

区分名： 看護実践を支える科目
科目名： 小児看護学Ⅱ
(英語名称： Nursing Care for Children)

【担当教員】 古溝 陽子、和田 久美子、鈴木 学爾、その他

【開講年次】 3年次 【学期】 前期 【必修/選択】 必修

【授業形態】 講義/演習 【単位数】 3単位 【時間数】 45時間

【概要】

新生児期から青年期（思春期）にある対象者とその家族について理解し、子どもの発達段階と健康レベルに応じた看護援助を行える知識、技術を学ぶ。当科目は、看護師としての実務経験のある教員が担当する。

【学習目標】

- 1) 子どもの権利を理解し、子どもやその家族を個として尊重するという意味を説明できる。
- 2) さまざまな発達段階と健康レベルにある子どもと家族に対して、その状況に応じた看護援助を説明できる。
- 3) 小児保健・医療・福祉・教育の中における小児看護の役割を説明できる。
- 4) 専門職業人としての態度を習得する。

【テキスト】

随時提示する

【参考書】

随時提示する

【成績評価方法】

課題 20%、試験 80%の配分で評価する

【その他（メッセージ等）】

「小児看護学Ⅰ」で学んだ、子どもの発達段階の特徴について復習して臨んで下さい。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	オリエンテーション 医療を体験する子どもの看護	オリエンテーション 子どものセルフケア能力、子どもの病気の理解
第2回	医療を体験する子どもの看護	健康障害が子どもと家族に与える影響、 子どものストレス・対処、子どもの意思決定
第3回	医療を体験する子どもの看護	
第4回	小児の健康障害①	
第5回	小児の健康障害②	感染症
第6回	症状と看護①	発熱、嘔吐、下痢、便秘、呼吸困難、脱水
第7回	症状と看護①	
第8回	症状と看護①	
第9回	健康障害をもつ子どもと家族の アセスメント方法①	アセスメント方法
第10回	小児の健康障害③	アレルギー疾患
第11回	小児の健康障害④	リウマチ性疾患、神経疾患
第12回	症状と看護②	けいれん、痛み
第13回	症状と看護②	
第14回	子どものヘルスアセスメント検査処置 を受ける子どもの看護	子どもとのコミュニケーション・関係作り、 情報収集、アセスメント、採血、経口与薬、 末梢静脈内点滴等
第15回	子どものヘルスアセスメント検査処置 を受ける子どもの看護	
第16回	子どものヘルスアセスメント検査処置 を受ける子どもの看護	
第17回	活動制限のある子どもの看護	子どもにとっての活動制限、子どもに与える影 響
第18回	小児の健康障害⑤	循環器疾患
第19回	小児の健康障害⑥	消化器疾患
第20回	手術を受ける子どもの看護	多期的手術、麻酔の影響、成長発達への影響
第21回	手術を受ける子どもの看護	
第22回	健康障害をもつ子どもと家族の アセスメント方法②	アセスメント方法
第23回	【演習】看護場面の描写と考察	子どもの観察と反応の意味、関わりの意味
第24回	【演習】看護場面の描写と考察	
第25回	【演習】看護場面の描写と考察	

第26回	児童虐待に関する子どもと家族への看護	虐待の要因・発見、援助者の姿勢
第27回	医療保育専門士の役割と活動	医療保育、遊び、連携
第28回	【演習】事例アセスメント	アセスメント方法
第29回	【演習】事例アセスメント	
第30回	【演習】事例アセスメント	
第31回	特別支援学校の役割	病弱教育、特別支援学校
第32回	小児の健康障害⑦	新生児疾患、染色体異常
第33回	小児の健康障害⑧	内分泌疾患、代謝性疾患
第34回	ハイリスク新生児の看護	ハイリスク新生児の特徴、ディベロップメンタルケア、家族への影響
第35回	ハイリスク新生児の看護	
第36回	集中治療の必要な新生児の看護の実際	
第37回	健康障害をもつ子どもと家族のアセスメント方法③	アセスメント方法
第38回	小児の健康障害⑨	血液・腫瘍疾患
第39回	小児の健康障害⑩	腎・泌尿器疾患
第40回	慢性的経過をたどる健康障害をもちながら生活する子どもの看護	慢性疾患、成長発達への影響、セルフケア能力、家族への影響
第41回	慢性的経過をたどる健康障害をもちながら生活する子どもの看護	
第42回	慢性的経過をたどる健康障害をもちながら生活する子どもの看護	
第43回	重度の障がいをもつ子どもの看護	重症心身障がい児の特徴、ケア
第44回	発達障害をもつ子どもの看護	発達障害の子どもの特徴、関わり方
第45回	AYA世代にある人への看護	移行期医療、ライフイベントに応じた支援

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	● 実践の基盤となる知識を示

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△ 習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。	
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。	
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。	
4. 知識とその応用				
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。				
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)	
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	● 基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目	
		③	論理的思考能力を高める科目	

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを採求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名：看護実践を支える科目

科 目 名：老年看護学Ⅱ

(英語名称：Gerontological NursingⅡ)

【担当教員】 坂本 祐子，齋藤 史子，杉本 幸子

【開講年次】 3年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 演習 【単 位 数】 3単位 【時 間 数】 45時間

【概要】

加齢に伴う変化と高齢者特有の健康障害が生活に及ぼす影響について理解し、Quality of Life の向上を目指した効果的な看護援助の実際について学ぶ。
看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

1. 高齢者特有の健康障害の成り立ちと生活への影響について理解する。
2. 高齢者の健康障害に特徴に適した援助方法について理解する。
3. 認知症と認知機能障害が高齢者の生活に与える影響について理解する。
4. 高齢者の生活を支援する社会資源について理解する。

【テキスト】

1. 北川 公子、他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 第9版，医学書院
(2023年度 “老年看護学Ⅰ” 指定テキスト 購入済)
2. 鳥羽 研二、他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論，第5版．医学書院
(2023年度 “老年看護学Ⅰ” 指定テキスト 購入済)

【参考書】

1. 山田律子編：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図第4版，医学書院
2. 奥宮暁子編：ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程第2版．医歯薬出版株式会社

【成績評価方法】

全講義数の3分の2以上出席した学生が成績評価の対象となる。

評価は、筆記試験、演習1：体験学習及びグループワーク、演習2：事例検討の課題を総合して行う。

【その他（メッセージ等）】

2年次の老年看護学Ⅰで学習した内容を基盤に、老年看護学を深めていきます。高齢者の生活機能を支える看護、健康逸脱から回復を促す看護、治療を必要とする高齢者の看護、認知症看護等を学びます。老年看護学として、高齢者の潜在能力や価値観・望みなどを最大限に活かし、高齢者とその家族が幸せや満足が感じられる生活の維持や向上の実現をめざす支援について考えていきます。3年後期の実習に繋がるように、講義・演習に主体的に取り組んでいきましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	コースオリエンテーション 老年看護学Ⅰ復習及び補足	老年看護学Ⅰ定期試験解説
第2回	健康逸脱からの回復を促す看護：高 齢者に多い疾患の特徴	脳梗塞、慢性硬膜下血腫 正常圧水頭症
第3回	健康逸脱からの回復を促す看護： 運動器疾患	骨折、骨粗鬆症、変形性関節症
第4回	健康逸脱からの回復を促す看護： 呼吸器疾患	肺炎、誤嚥性肺炎、COPD
第5回	健康逸脱からの回復を促す看護： 皮膚疾患	褥瘡、皮膚掻痒症、スキン・テア
第6回	健康逸脱からの回復を促す看護： うつ・せん妄	老年期のうつ、せん妄
第7回	治療を必要とする高齢者の看護：薬 物療法	薬物動態の変化・薬物有害事象
第8回	治療を必要とする高齢者の看護： 入院治療・退院支援	入院に伴う環境の変化と高齢者への影 響・退院支援
第9回	治療を必要とする高齢者の看護：外 来看護	外来看護・検査、治療継続への援助
第10回	治療を必要とする高齢者の看護：手 術療法	術前/術後の看護、周手術期の合併症予防 廃用症候群の予防
第11回	高齢者の生活機能を整える看護： 清潔	清潔の意義、身だしなみ、身体の清潔と 衣生活への援助
第12回	高齢者の生活機能を整える看護： 食事・食生活①	食事・食生活のケアの基本とアセスメン ト
第13回	高齢者の生活機能を整える看護： 食事・食生活②	脱水、低栄養

第14回	高齢者の生活機能を整える看護：食事・食生活③	摂食嚥下障害
第15回	高齢者の生活機能を整える看護：活動と休息①	活動と休息、生活リズム
第16回	高齢者の生活機能を整える看護：活動と休息②	睡眠障害、生活リズムを整える看護
第17回 第18回	高齢者の生活機能を整える看護：排泄機能障害①	排尿機能障害
第19回	高齢者の生活機能を整える看護：排泄機能障害②	排便機能障害
第20回 第21回	高齢者の生活機能を整える看護：コミュニケーション	視聴覚障害のアセスメントとケア、補助具の活用
第22回	高齢者の生活機能を整える看護：転倒①	生活への影響、高齢者の転倒リスク、転倒リスクのアセスメント
第23回	高齢者の生活機能を整える看護：転倒②	医療機関における転倒予防 生活の場における転倒予防
第24回	生活・療養の場における看護①	介護老人保健師施設
第25回	生活・療養の場における看護①	高齢者施設の種別、機能、職員構成
第26回	生活・療養の場における看護②	高齢者施設の看護
第27回	エンドオブライフケア	エンドオブライフケア、意思決定支援 ACP
第28回	認知症①	診断と治療
第29回	認知症②	認知症看護の基本、認知機能及び生活機能のアセスメント
第30回	認知症③	環境調整
第31回	認知症④	生活機能支援、転倒予防
第32回	認知症⑤	認知症と身体疾患
第33回	認知症⑥	若年性認知症
第34回	【演習】事例検討①	老年看護における看護過程
第35回	【演習】事例検討②	現疾患の理解と関連情報の抽出
第36回	【演習】事例検討③	高齢者のアセスメント
第37回	【演習】事例検討④	高齢者のアセスメント
第38回	【演習】事例検討⑤	高齢者のアセスメント
第39回	【演習】事例検討⑥	看護課題、目標、看護計画
第40回	【演習】事例検討⑦	看護計画、評価

第 41 回 第 42 回	【演習】体験学習	加齢変化及び片麻痺の疑似体験
第 43 回 第 44 回	【演習】体験学習	認知症体験
第 45 回	【演習】食べることの支援	口腔ケア、嚥下食

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	修得の機会がない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 看護実践を支える科目
科 目 名： 精神看護学Ⅱ
(英語名称： Mental Health Nursing Ⅱ)

【担当教員】 大川 貴子、田村 達弥、佐藤 利憲

【開講年次】 3年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 演習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

精神の健康上の問題をもつ人に対してどのようにアプローチしたらよいかを考えられるよう、講義および演習を行なう。尚、この科目は看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- 1) 精神の健康問題をもつ人が体験する世界について理解する。
- 2) 精神医療の歴史と法律について理解する。
- 3) 精神看護を実践するための枠組みを理解する。
- 4) 主要な精神疾患の病理・症状・看護のポイントについて理解する。
- 5) 急性期・慢性期・地域移行期にある患者への看護について理解する。
- 6) 地域で生活する精神障害者の支援方法を理解する。
- 7) セルフケアのアセスメントおよびケアプランの作成ができる。

【テキスト】

指定しない

【参考書】

開講時に提示する

【成績評価方法】

最終試験：90%

事例展開：10%

【その他（メッセージ等）】

精神の健康問題について、時には自分にひきつけ、時には自分と距離をおいて考えていきましょう。精神看護の奥の深さを感じとってもらえると嬉しいです。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	オリエンテーション	
第2回 第3回	精神の健康問題をもつ 人の理解	ピアサポーターによるリカバリーストーリー の発表およびそれを受けてのグループワーク
第4回	精神医療の歴史と法律	社会的背景・わが国の精神保健医療福祉の現状 精神保健に関する法律
第5回 第6回	精神看護の枠組み	セルフケア・リカバリー・ストレングス・対人関係 論
第7回 第8回 第9回	統合失調症患者の理解 とアプローチ	統合失調症の病態や治療の理解・アプロ ーチ方法
第10回 第11回 第12回	うつ病・双極性障害患 者の理解とアプローチ	うつ病および双極性障害の病態や治療の理解・ア プローチ方法
第13回 第14回 第15回	依存症患者へのアプロ ーチ	依存症の理解・アプローチ方法
第16回 第17回	急性期にある精神疾患 患者の看護	精神科病棟に入院する急性期の患者に対する看護 について理解
第18回	精神科における治療と 看護	精神疾患患者に対する治療内容および治療をうけ る患者への看護についての理解
第19回 第20回	慢性期・地域移行期にあ る精神疾患患者の看護	精神科病棟に入院する慢性期および地域移行期の 患者に対する看護について理解
第21回	精神医療における作業 療法の理論と実際	精神疾患患者に対する作業療法についての理解
第22回 第23回 第24回	事例の展開	セルフケアの枠組みを用いて事例を展開
第25回	地域で生活する精神障 害者へのアプローチ	精神保健福祉制度や訪問サービスについての理解
第26回	パーソナリティ障害患 者へのアプローチ	パーソナリティ障害の理解・アプローチ方法
第27回	摂食障害患者へのアプ	摂食障害の理解・アプローチ方法

	ローチ	
第28回	知的障害者へのアプローチ	知的障害の理解・アプローチ方法
第29回	自閉症スペクトラム障害患者へのアプローチ	自閉症スペクトラム障害の理解・アプローチ方法
第30回	事例の具体的な援助についての解説	事例の具体的な援助についての解説

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェSSIONAL			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 ② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。 ② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。 ③ 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
3)	対人関係	① 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	① 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。 ② 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区分名： 看護実践を支える科目

科目名： 在宅看護論

(英語名称： Home Care Nursing)

【担当教員】 高橋 香子、鹿俣 律子

【開講年次】 3年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

在宅療養者とその家族の生活および健康課題について理解し、さらに在宅療養を支える保健医療福祉等の法制度、ケアシステムについて学ぶ。また、在宅看護の特徴と機能を理解するとともに、在宅療養支援の方法、継続看護と退院支援、チームケアの重要性について学び、在宅ケアにおける看護職の役割について探求する。当科目は保健師・看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- 1) 在宅看護に関連する概念、在宅看護の機能について説明できる。
- 2) 在宅療養を支える社会資源と多職種協働について説明できる。
- 3) 在宅看護が対象とする個人・家族への支援とその方法について説明できる。
- 4) 退院支援と継続看護の意義、看護職の役割について説明できる。

【テキスト】

河原加代子：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践
第6版 医学書院

【参考書】

尾崎章子他：地域・在宅看護論第1版 医歯薬出版

河野あゆみ：新体系看護学全書地域・在宅看護論第6版 メヂカルフレンド社

【成績評価方法】

成績評価方法：出席状況（15%）、授業への参加度（15%）、課題レポート（20%）、
期末レポート（50%）により総合的に評価する。

【その他（メッセージ等）】

在宅療養者・家族の立場に立ってどうすべきかを考え、積極的に授業に参加すること。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1-3回	在宅看護の基盤	在宅看護の理念と役割
第4-6回	在宅看護を支える仕組み①	在宅看護に関する制度
第7-9回	在宅看護を支える仕組み②	訪問看護の制度と機能
第10-12回	在宅看護過程①	在宅看護過程の特徴と展開方法
第13-15回	在宅看護過程②	在宅療養における家族支援
第16-18回	在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働①	在宅療養を支える歯科医師の役割 在宅看護における多職種連携
第19-21回	在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働②	在宅療養を支える薬剤師の役割
第22-24回	在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働③ 在宅看護の実際①	・退院支援・退院調整の実際 ・在宅医療・介護連携推進 ・地域密着の在宅医療・在宅看護
第25-27回	在宅看護の実際②	地域での生活と療養を支える看護 地域包括ケアの実践
第28-30回	事例演習 まとめ	複雑困難事例 在宅看護の役割と基本姿勢

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践を支える科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。	
6. 地域社会への貢献				
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>				
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。	●
		①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	
2)	福島の災害から学ぶ	②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。	—
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。	
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。	
				実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
				修得の機会がない

区分名： 看護実践を支える科目

科目名： 地域包括ケア論

(英語名称： Community-based Integrated Care)

【担当教員】 大川貴子、高橋香子、菅野久美、横山郁美、杉本幸子、山口咲奈枝、古溝陽子

【開講年次】 3年次 【学期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単位数】 1単位 【時間数】 15時間

別表1 公衆衛生看護学—個人・家族・集団・組織の支援、公衆衛生看護活動展開論、
公衆衛生看護管理論

別表3 専門分野—成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学
統合分野—在宅看護論

【概要】

地域包括ケアを取り巻く社会的背景や現状、諸課題を通して、地域包括ケアシステムに関する基礎的・基本的な内容を理解するとともに、地域包括ケアの推進における多職種連携の意義および看護職の役割について学習する。

※看護師・保健師・助産師として実務経験がある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- 1) 地域包括ケアを推進する必要性と基本理念について説明できる。
- 2) 様々なライフステージ、健康レベルにある人々への地域包括ケアについて説明できる。
- 3) 地域包括ケアにおける関係機関・職種との連携、協働について説明できる。
- 4) 地域包括ケアにおける看護職の役割と機能について説明できる。

【テキスト】

特に指定しない

【参考書】

随時紹介する

【成績評価方法】

出席 2/3 以上および課題レポート 60 点以上を合格とする。

【その他（メッセージ等）】

地域包括ケアの基本とさまざまな看護実践について、各領域の先生や専門職の方々から学ぶことができます。住み慣れた地域で自分らしい生活を送るための看護を一緒に考えていきましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）	担当
第1, 2回 6/18 Ⅱ, Ⅲ限	地域包括ケアの必要性と基本理念 地域包括ケアにおける多職種連携	地域包括ケアを取り巻く社会的背景、地域包括ケアの基本理念、多職種連携と看護職	高橋
第3～5回 6/25 Ⅰ～Ⅲ限	地域包括ケアにおける継続看護と看護職の役割	継続看護、地域連携、多職種連携と看護職の役割	菅野 横山
第6～8回 7/2 Ⅰ～Ⅲ限	高齢者を対象とした地域包括ケアと看護職の役割	高齢者を対象とした地域包括ケアの実際、退院調整、在宅ケア、訪問看護、多職種連携と看護職の役割	杉本
第9～11回 7/9 Ⅰ～Ⅲ限	精神障害者を対象とした地域包括ケアと看護職の役割	精神障害者の社会復帰、自立、社会参加への支援、多職種連携と看護職の役割	大川
第12, 13回 7/12 Ⅳ, Ⅴ限	子育て世代を対象とした地域包括ケアと看護職の役割	子育て世代が抱える健康課題、子育て世代包括支援センター（こども家庭センター）、多職種連携と看護職の役割	山口
第14, 15回 7/23 Ⅱ, Ⅲ限	健康障がいのある子どもと家族を対象とした地域包括ケアと看護職の役割	健康障がいのある子どもと家族の地域包括ケアの現状と課題、多職種連携と看護職の役割	古溝

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△ 修得の機会はあるが、単位

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		認定に関係ない
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	-	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		

		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。	
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。	
6. 地域社会への貢献				
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>				
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。	
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。	
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。	
7. 看護学発展への貢献				
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。				
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	
				修得の機会はあるが、単位認定に関係ない

区分名： 看護の基本となる科目

科目名： 家族看護論

(英語名称： Family Nursing)

【担当教員】 和田久美子、中村由美子、佐藤菜保子、井上水絵、山口咲奈枝、大川貴子、坂本祐子、高橋香子

【開講年次】 3年次 【学期】 前期 【必修/選択】 必修

【授業形態】 講義 【単位数】 1単位 【時間数】 15時間

【概要】

現在の社会的、文化的背景に応じた家族を理解し、多様な家族のあり方を学ぶ。また、看護学において対象となるさまざまな状態にある家族への援助を考える基本的な方法を学ぶ。実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- 1) 家族および 家族看護とは何かを理解できる。
- 2) 家族看護の基盤となる理論を理解できる。
- 3) さまざまな状態にある家族を理解し、支援する方法を理解する。

【テキスト】

講義の中で随時紹介

【参考書】

講義の中で随時紹介

【成績評価方法】

レポート 100%

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)	担当
	オリエンテーション		和田
第1回	家族看護学の概念	家族とは 家族看護とは 家族看護における看護職の役割	中村
第2回	家族の構造と機能	家族の形態・機能	中村
第3回	家族看護の基盤となる理論	家族発達理論 家族システム理論	中村
第4回	さまざまな状態にある家族への看護①	救急医療・集中治療における家族への看護	佐藤
第5回	さまざまな状態にある家族への看護②	慢性疾患をもつ患者の家族への看護	井上
第6回	さまざまな状態にある家族への看護③	妊娠期・分娩期・産褥期にある女性の家族への看護①	山口
第7回	さまざまな状態にある家族への看護④	妊娠期・分娩期・産褥期にある女性の家族への看護②	山口
第8回	さまざまな状態にある家族への看護⑤	健康障害をもつ子どもの家族への看護①	和田
第9回	さまざまな状態にある家族への看護⑥	健康障害をもつ子どもの家族への看護②	和田
第10回	さまざまな状態にある家族への看護⑦	精神疾患をもつ患者の家族への援助①	大川
第11回	さまざまな状態にある家族への看護⑧	精神疾患をもつ患者の家族への看護②	大川
第12回	さまざまな状態にある家族への看護⑨	健康障害をもつ高齢者の家族への援助①	坂本
第13回	さまざまな状態にある家族への看護⑩	健康障害をもつ高齢者の家族への援助②	坂本
第14回	さまざまな状態にある家族への看護⑪	在宅介護を行う家族への看護①	高橋
第15回	さまざまな状態にある家族への看護⑫	在宅介護を行う家族への看護②	高橋

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		を示せることが単位認定の要件である
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	—	習得の機会がない

区分名： 看護実践を支える科目
科目名： 感染看護学
(英語名称： Infectious Nursing Science)

【担当教員】 渡邊 美恵子、黒田 るみ

【開講年次】 3年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

看護専門職業人として働く場は、病院はもとより在宅看護、地域と様々であり質保証として感染看護学は重要である。種々の感染症が流行した場合に対応するための疫学的な視点も求められる。感染防止に関する基礎知識をもとに感染防止に必要な方策を学び、様々な状況に対応するための基盤となる考え方を培う。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目

【学習目標】

- 1) 感染看護学の重要性について説明できる。
- 2) 感染管理に関する基礎知識について説明できる。
- 3) 病院、施設における感染管理の実際について説明できる。
- 4) 様々な状況における感染防止の対策について説明できる。
- 5) 感染症対策の法的側面について学びグローバルな視点での感染対策について説明できる。

【テキスト】

指定しない

【参考書】

講義内で提示する

【成績評価方法】

授業への取り組み度およびレポート課題等 50%、定期試験 50%により評価する。

【その他（メッセージ等）】

看護の専門性と感染看護についての理解を深め、専門職として基盤となる感染防止に対する知識と行動が行えるように学んでいきましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	感染看護とは	感染看護学の位置づけと学びの目的 職業感染防止への対応
第2回	公衆衛生における感染症対策	世界の感染症とパンデミック対策
第3回	感染対策	1) スタンダードプリコーション
第4回	感染防止の基礎知識と看護技術	1) 感染経路別予防対策を隔離法 2) 手洗い 3) 防護用具 4) 洗浄・消毒・滅菌 5) 検体の取り扱い
第5回	職業感染防止への対応	自己状況の把握
第6回		他者への影響について考える
第7回	薬剤耐性菌の基礎と感染管理	感染症の原因となる様々な微生物と病院 施設での取り組み
第8回	医療施設における感染管理の実	病院における感染対策チーム(ICT)およ
第9回	際(1)	び感染管理認定看護師(ICN)の活動
第10回	医療施設における感染管理の実	医療施設における感染対策の事例
第11回	際(2)	
第12回	感染と看護ケア	差別と偏見
第13回		
第14回	様々な状況における感染状況と 対策	感染管理の現状と課題
第15回	まとめ	

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	習得の機会がない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	△	習得の機会があるが、単位

	もつ看護専門職者	② 倫理性を高める科目		認定に関係ない。
		③ 論理的思考能力を高める科目		
		④ 表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	① 社会の理解を深める科目	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		② 人間の理解を深める科目		
		③ 人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④ 看護の基本となる科目		
		⑤ 看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	① 看護実践の応用となる科目	-	習得の機会がない
		② 看護の実践		
		③ 看護を統合する科目		
5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

区 分 名： 看護実践を支える科目
科 目 名： 医療安全学
(英語名称： Medical Safety Science)

【担当教員】 黒田 るみ

【開講年次】 3年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

医療の質を高めるために欠かせないのが、医療安全の確保である。医療事故の種類や構造、ヒューマンエラー発生のメカニズムについて、事例を通して読み解き、医療事故を防止するための基本的な考え方を学ぶ。さらに、医療安全に向けた組織的な取り組みを理解し、多職種連携の必要性への理解を深める。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- 1) 医療事故の定義と事故発生の要因および構造を説明することができる。
- 2) 事故発生のメカニズムとヒューマンエラーとの関連を説明できる。
- 3) 医療事故に関する法的な責任を説明できる。
- 4) 医療事故防止対策について、個人や組織、様々な立場から検討することができる。
- 5) 医療安全について、多職種連携の立場から検討できる。
- 6) 医療事故に関連する自身の傾向を知り、自分にできる事故防止対策を検討することができる。

【テキスト】

指定しない。

【参考書】

1. 川野龍太郎：医療におけるヒューマンエラー第2版 なぜ間違える どう防ぐ、医学書院、2014.
2. 川村治子：医療安全ワークブック第4版、医学書院、2018.
3. 松下由美子他編：ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践②医療安全、メディカ出版、2021.

4. 福島県立医科大学医学部附属病院医療安全管理部発行：医療安全ポケットマニュアル（授業中に配布します）

【成績評価方法】

定期試験 50%、レポート（提出課題）・授業への参加態度 50%

【その他（メッセージ等）】

実際に起きた過去の医療事故事例や、医療事故対策の現状をもとに、医療事故防止に必要な基礎的な知識を学びます。医療事故は、誰もが起こす可能性のあることです。

看護学生のうちから実践していける事故防止対策を授業内容に組み込んでいきたいと考えています。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション 医療安全を学ぶ意義について	医療安全の歴史の概要、看護学を専門とする立場から医療安全を学ぶ意義
第2回	医療事故について	医療事故に関連する概念・用語について
第3回	医療事故報告について	医療事故報告について、医療事故事例の検討
第4回	医療事故発生の構造①	医療事故発生のメカニズム、医療事故の分析
第5回	医療事故発生の構造②	医療事故とヒューマンファクター工学
第6回	ヒューマンエラー①	ヒューマンエラーとは何か、モデルの概要
第7回	ヒューマンエラー②	ヒューマンエラー対策の戦略・戦術
第8回	医療事故防止対策①	環境への働きかけについて
第9回	医療事故防止対策②	KYT および医療安全研修について
第10回	医療安全とチーム①	ノンテクニカルスキルとチーム STEPPS
第11回	医療安全とチーム②	医療安全チームの取組の実際
第12回	医療安全に関連する法的責任と倫理①	外的規範と内的規範、医療安全に関連した法律および医療者側の法的責任
第13回	医療安全に関連する法的責任と倫理②	医療事故に関わった当事者および当事者を支える人々
第14回	組織的な事故防止対策①	組織的な医療安全、リスクマネージャーの役割について
第15回	組織的な事故防止対策②	看護学生に求められる医療安全への取組まとめ

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		

		③	<p>独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。</p>		定の要件である
		④	<p>自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。</p>		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
<p>自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。</p>					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	<p>人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。</p>	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	<p>人々の社会的背景を理解して尊重することができる。</p>		
		③	<p>看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。</p>		
		④	<p>望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。</p>		
2)	チームでのコミュニケーション	①	<p>人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。</p>	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	<p>チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。</p>		
		③	<p>チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。</p>		
		④	<p>人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。</p>		
4. 知識とその応用					
<p>看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。</p>					

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		

		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。	
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。	
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。	
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。	
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。	
7. 看護学発展への貢献				
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。				
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	

区 分 名： 看護実践を支える科目
科 目 名： 公衆衛生看護学Ⅱ
(英語名称： Public Health NursingⅡ)

【担当教員】 阿久津和子、鹿俣律子、高崎千聡

【開講年次】 3年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 選択必修

【授業形態】 講義 演習 【単 位 数】 3単位 【時 間 数】 45時間

【概要】

地域の特性をアセスメントし健康課題を明らかにするための考え方、地域診断の理論およびその方法を習得する。地域診断に基づく計画策定・実践・評価に関する基礎的知識と技術、実践方法について理解を深める。保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

一般目標

1. 公衆衛生看護活動における地域診断とは何かについて学ぶ。
2. 公衆衛生看護活動における地域診断の実践的な手法について学習する。
3. 地域診断を基盤とする行政の場における公衆衛生看護活動について学ぶ。

行動目標

1. 地域診断の目的、意義、必要性を述べることができる。
2. 既存のデータ等を用いて地域診断の過程を修得することができる。
3. 地域診断に基づいて健康問題を明確にし、説明することができる。
4. 地域診断に基づいた公衆衛生看護活動の方法について述べるすることができる。

【テキスト】 標美奈子他：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院

【参考書】

荒賀直子・後閑容子編：公衆衛生看護学 jp 第5版. インターメディカル

金川克子, 早川和生監訳：コミュニティ・アズ・パートナー

地域看護学の理論と実際 第2版 医学書院.

佐伯和子他:公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護の方法と技術、医歯薬出版株式会社

【成績評価方法】

出席状況・講義・演習への参加態度（20%）筆記試験（50%）課題提出物（30%）による総合評価

【その他（メッセージ等）】

地域アセスメントの展開過程の学習においてグループワークを取り入れていますので主体的に臨み、また欠席することのないよう体調管理に留意しましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1- 3 回	公衆衛生看護活動の考え方	公衆衛生看護活動、目的、特徴
第 4- 6 回	地域診断の展開過程	展開過程、地域診断の対象
第 7-12 回	地域診断の展開過程	情報収集、量的・質的データ
第 13-21 回	地域診断の展開過程	データの整理・分析
第 22-30 回	地域診断の展開過程	健康課題の要因・背景、アセスメント 健康課題の抽出
第 31-36 回	地域診断の展開過程	関連性の検討、優先順位
第 37-39 回	地域診断に基づく 地域保健活動の計画づくり	地域保健活動の計画づくり 保健事業の計画づくり
第 40-42 回	地域診断に基づく 地域保健活動の実際	自治体での保健師活動
第 43-45 回	地域診断に基づく 地域保健活動の評価・改善	地域保健活動の評価・改善、 保健事業計画の評価・改善、PDCA サイクル

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル	
1. プロフェッショナル				
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。				
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		修得の機会はあるが、単位に関係ない
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。		
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基礎となる知識を示

	とのコミュニケーション	②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		せることが単位認定の要件である
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基礎となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)		①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場 知識を応用で

	創造性豊かな看護専門職者	②	人間の理解を深める科目		きることが単位認定の要件である
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践を支える科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

区分名： 看護実践を支える科目
科目名： 公衆衛生看護学Ⅲ
(英語名称： Public Health NursingⅢ)

【担当教員】 阿久津和子

【開講年次】 3年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 選択必修

【授業形態】 講義・演習 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

住民や関係者との協働による地域づくりや地域の健康課題解決の方法について学習する。

地区組織や住民グループの育成・支援に関する基本的知識と技術について学び、コミュニティ・エンパワメントをめざした保健師の組織支援について理解を深める。保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

1. 住民や関係者との協働により展開する公衆衛生看護活動の目的と方法を説明できる
2. 地区組織や住民グループの育成・支援における保健師の役割を述べることができる
3. 演習のグループ活動では、他のメンバーと議論を行ない、協力して課題を達成することができる

【テキスト】 中村裕美子他：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術第5版 医学書院

【参考書】

荒賀直子・後閑容子編：公衆衛生看護学 jp 第5版. インターメディカル
佐伯和子他:公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護の方法と技術、医歯薬出版株式会社

【成績評価方法】

出席状況・講義への参加態度(20%)筆記試験(50%)課題提出物(30%)による総合評価

【その他(メッセージ等)】

地域看護学Ⅰ・Ⅱや地域看護学実習、公衆衛生看護学Ⅰ・Ⅱの授業内容と関連づけながら学びましょう

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第 1- 3 回	公衆衛生看護における地区組織活動	歴史、概念、考え方、組織の種類
第 4- 6 回	地区組織活動の展開①	育成・支援、組織化、 コミュニティ・エンパワメント
第 7- 9 回	地区組織活動の展開②	発展過程、保健師の役割
第 10-12 回	地区組織活動の実際	自治体での活動の実際
第 13-15 回	まとめ	

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、 価値観を模擬 的に示せるこ とが単位認定 の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/ 礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践を支える科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

区分名： 看護実践を支える科目
科目名： 公衆衛生看護学Ⅳ
(英語名称： Public Health Nursing Ⅳ)

【担当教員】 高橋 香子

【開講年次】 3年次 【学期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単位数】 1単位 【時間数】 15時間

【概要】

公衆衛生看護管理の目的、前提条件、管理機能（事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算編成・予算執行管理、人材育成・人事管理、情報管理、健康危機管理）について学習し、保健師の専門性について理解を深める。

保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

- 1) 保健師が担う公衆衛生看護管理の目的とその前提条件について説明できる。
- 2) 公衆衛生看護管理機能について説明できる。
- 3) 公衆衛生看護管理の観点から保健師の専門性について説明できる。

【テキスト】

指定しない。

【参考書】

開講時に提示する。

【成績評価方法】

出席状況・授業への参加（30%）、筆記試験（70%）により総合的に評価する。

【その他（メッセージ等）】

保健師が行う公衆衛生看護管理は、保健師活動そのものでもあります。公衆衛生看護学Ⅰ～Ⅲの学習内容をふまえて授業に参加してください。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1-3回	公衆衛生看護管理機能(1)	公衆衛生看護管理機能の目的、前提条件、事例管理
第4-6回	公衆衛生看護管理機能(2)	地区管理、事業・業務管理、予算管理
第7-9回	公衆衛生看護管理機能(3)	情報管理、組織運営管理、健康危機管理
第10-12回	公衆衛生看護管理機能(4)	人事管理・人材育成、公衆衛生看護管理の実際
第13-15回	まとめ	公衆衛生看護管理と保健師の専門性

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	〃
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特徴を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

区分名： 看護を統合する科目
科目名： 災害看護学Ⅱ
(英語名称： Disaster NursingⅡ)

【担当教員】 橋本 真由美、佐藤 美佳

【開講年次】 3年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 演習 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

自然・人為・特殊災害等の発生時において必要な看護の知識と技術を学修する。また、福島が経験した原子力放射線災害による人々や社会への影響、とくに災害時に生じる健康や生活上の問題、人々の反応について理解し、看護の役割を探究する。

【学習目標】

- 1) 災害時の看護活動を述べることができる。
- 2) 災害時に必要な多職種連携について述べることができる。
- 3) 模擬傷病者体験や机上訓練から、被災者や救援者の心理について考察することができる。
- 4) 放射線災害による人々や社会への影響、健康上の問題について述べることができる。
- 5) 様々な場における倫理的配慮について考察できる。

【テキスト】

看護の統合と実践②災害看護学 メジカルフレンド社

【参考書】

- Basic & Practice 災害看護 学研メディカル秀潤社
- 災害看護学・国際看護学 医学書院
- 多職種連携で支える災害医療
- 災害医療 2020 メジカルビュー社

【成績評価方法】

筆記試験 (50%)，課題 (30%)，出席率、グループワークへの貢献度・参加 (20%)
で総合的に判断する

【その他（メッセージ等）】

災害時には、多職種間で連携・協働し被災者の健康を支援します。自分にできることは何かを自ら探し支援していくことが必要になります。普段できないことは災害時にもできません。授業を通して、自己の能力と課題を明確にしていきましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	ガイダンス	科目概要、学習内容、評価方法 災害看護学Ⅰ振り返り
第2回	災害時の看護の役割	多職種連携の中での看護の役割について
第3回	DMATの活動	DMATの役割 実際の活動
第4回	外傷看護	災害時の外傷 外傷への看護
第5回	倫理的配慮	災害時の倫理的配慮
第6回	メンタルヘルスケア	被災者と支援者のメンタルヘルス
第7回	災害時の病院での対応	災害時の体制
第8回		病院での受け入れ
第9回	放射線災害看護	放射線の測定/実技：サーベイメーターの取り扱い
第10回		放射線の被ばくリスクアセスメント
第11回		放射線災害における看護職の役割
第12回	リスクコミュニケーション	放射線健康リスクコミュニケーション
第13回	災害時の病院対応	支援・受援、避難
第14回		トリアージ
第15回	まとめ	振り返り

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。	

1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定には関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単
		②	倫理性を高める科目		

		③	論理的思考能力を高める科目		位認定の要件である
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		

		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	

区分名： 看護を統合する科目
科目名： 看護研究 I
(英語名称： Nursing Research I)

【担当教員】 山口咲奈枝、片桐和子、丸山育子、石井佳世子、他

【開講年次】 3年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

科学的知識体系を発展させるための看護研究とその方法論（質的研究方法論、量的研究方法論）の基礎的知識を学び、疑問あるいは課題として捉えた現象を解決するための研究的プロセスを活用できる能力を培う。

実務経験のある教員等による授業科目。

【学習目標】

(一般目標)

1. 看護研究の定義や意義を理解する。
2. 看護現象に存在する疑問あるいは課題を科学的に探求する。
3. 文献検索のスキルと文献検討の基本を学習する。
4. 看護の質を向上させるための看護研究方法論の基礎を学習する。
5. 研究計画書作成の基本を学習する。

(行動目標)

1. 看護研究の意義と看護実践へのつながりを説明できる。
2. 講義・演習・実習で気づいた看護現象の疑問を、研究の問いとして科学的に探求できる。
3. 看護研究における倫理的配慮について説明できる。
4. 文献検索と文献検討の基本的な方法を説明できる。
5. 質的なアプローチの研究デザインと研究方法の概要を説明できる。
6. 量的なアプローチの研究デザインと研究方法の概要を説明できる。
7. 研究計画書作成の方法を説明できる。

【テキスト】

- ・坂下玲子、宮芝智子、小野博史：系統看護学講座 別巻 看護研究 改訂版、医学書院、2023.

【参考書】

- ・黒田裕子：黒田裕子のSTEP by STEP 第5版, 医学書院, 2017.
- ・足立はるゑ：ワークシートで研究計画書がラクラク完成！ 看護研究サポートブック 第4版, MC メディカ出版, 2017.

その他、授業時に提示します

【成績評価方法】

定期試験 60%、講義への参加度および課題提出 40%で評価します。

尚、単位修得のためには、2/3 以上出席が必要です。

【その他（メッセージ等）】

看護研究の面白さを発見し、楽しみながら基本的知識を学んでいきましょう。4年次開講の看護研究Ⅱや統合実習へつながる授業ですので、積極的に参加してください。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション 看護研究とは	研究とは、看護研究とは、研究の目的・意義、 看護研究と実践との繋がり、研究のプロセス
第2回	研究の問いとデザイン	研究の問いとは、研究のデザイン
第3回	文献検索	文献とは何か、文献検索データベース、文献の 整理の方法 【情報処理演習室】
第4回	クリティーク	クリティークとは、クリティークの視点
第5回		文献を用いてクリティークしてみよう
第6回		(演習) ※課題提出
第7回	研究計画書作成	計画書の意義、計画書の構成
第8回		表題・序論・目的・用語の定義・仮説・概念枠
第9回		組みの要件、研究方法：標本抽出法
第10回	質的研究	質的研究手法とデータ収集の特徴
第11回		面接法、観察法
第12回	量的研究	量的研究手法とデータ収集の特徴、尺度、質問
第13回		紙法
第14回	倫理的配慮	研究における倫理的配慮の原則、研究依頼と同意の取り方、利益相反
第15回	看護研究の公表	研究成果のまとめ方、伝え方、研究の活用(EBP) 全体のまとめ

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		

		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					

		以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)			
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		

		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		

		クコミュニケーションについて説明できる。	
7. 看護学発展への貢献			
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。			
1)	科学的・論理的思考	① 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。 ② 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	◎ 実践できることが単位認定の要件である

区分名： 看護の実践
科目名： 急性期看護学実習
(英語名称： Adult Nursing (Acute) Practicum)

【担当教員】 片桐 和子、菅野 久美、嶋原 利洋他

【開講年次】 3年次 【学期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 実習 【単位数】 2単位 【時間数】 60時間

【概要】

急性期にある成人期から老年期の人を対象とし、周術期における看護展開について実習を通して学ぶ。実習に向けて、既習の科目を振り返り、対象の看護を実践するにあたり必要な知識および技術を復習・確認する。

実習目的；健康障害をもち、手術療法を受ける患者やその家族を多面的に理解し、患者とその家族との人間関係を基盤に、問題解決の系統的アプローチを通して、手術侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応がはかれるように看護を実践する能力を養う。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

1. 手術療法に関するストレス・危機状態にある患者・家族を擁護し、回復に向けた患者・家族の意思決定を支えることができる。
2. 手術や麻酔侵襲による患者の病態生理的变化を理解し、身体的苦痛の緩和や合併症を予防し、早期回復するための援助ができる。
3. 手術療法によって変化した身体の形態・機能、それに伴う生活の変化を理解し、患者の生活能力の獲得のために保健医療チームと共同して社会資源の活用についての援助ができる。
4. 患者の健康の保持増進をめざして、保健医療チームの一員としての働きかけができる。
5. 患者・家族との適切な人間関係を築くことができる。
6. 目的意識を持って実習を行い、自己学習能力を養い、根拠のある看護実践ができる。

【テキスト】

適宜提示・紹介する。

【参考書】

適宜提示・紹介する。

【成績評価方法】

急性期看護学実習要項を参照のこと。

【その他（メッセージ等）】

急性期看護学実習では、周術期にある患者を受け持ちます。周術期にある患者は、日々・時間ごとの状態変化が速い・大きいという特徴があります。実習目的に関連した授業内容についてしっかり復習を行い、実習に臨みましょう。実習は臨床現場でしか得られない貴重な学びや経験をする機会となります。また、手術侵襲が加わり、易感染状態にある患者と関わるため、学生自身の体調管理をしっかりして、臨みましょう。

【授業内容(学習項目)】

手術を受ける患者を1～2名受け持ち、周術期看護の看護過程を展開する
詳細は急性期看護学実習要項を参照のこと。

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェSSIONAL					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	同上
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	同上

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	同上
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	同上
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		認定の要件で ある。
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を 実践することができる。					
1)	人々のニ ーズに基づ いた看護の 実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることが できる。	◎	看護の一部と して実践でき ることが単位 認定の要件で ある
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにす るために、必要な情報を収集し、アセスメ ントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既 存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサー ビスのネットワーク化、システム化の重要 性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護 専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明で きる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区分名： 看護の実践
科目名： 慢性期看護学実習
(英語名称： Chronic nursing practicum)

【担当教員】 井上 水絵、横山 郁美、関野 瑞希、佐藤 菜保子、他

【開講年次】 3年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 実習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 60時間

【概要】

長期にわたる疾病管理が必要で、治癒することが困難な慢性疾患及び機能障害を持つ、成人期または老年期にある対象と家族に対し、慢性疾患の特徴を理解し、対象の全体像をとらえ、看護上の問題点を明らかにし、問題点の解決のために必要な看護支援方法を実践する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目的】

慢性的な健康問題を持つ患者の、身体的、精神的、社会的な影響を理解し、生涯にわたって必要となるセルフマネジメントの獲得を支援し、生活の再構築、QOLの維持・向上を計るために必要な看護に関する知識と実践能力を修得することができる。

【学習目標】

- 1) 慢性疾患を持つ患者と家族の特徴を理解し、身体的・精神的・社会的側面を多面的にとらえ全体像を把握し、看護上の問題点を述べることができる。
- 2) 慢性疾患の病態、検査、治療経過について理解し、疾病や障害をコントロールするために必要な看護支援（セルフケア能力維持・向上、指導、合併症予防）について考えることができる。
- 3) 慢性疾患をもつ患者とその家族へ必要な看護支援の実際を理解し、到達目標を明確にし、看護過程の計画・実践・評価をすることができる。
- 4) 慢性疾患・機能障害をもつ患者の治療や生活支援に関わる保健医療チームの役割と必要な社会資源を理解し、連携のありかたについて学ぶことができる。
- 5) 慢性疾患における看護実践を通じて自己の行動を振り返り、看護者としてのあり方や看護観について学ぶことができる。

【テキスト】

特に指定しない

【参考書】

特に指定しない

【成績評価方法】

慢性期看護学実習要項を参照のこと。

【その他（メッセージ等）】

健康レベル、セルフケア能力、疾患など、多様な疾病症状のコントロールのために入院して療養生活を送る成人期もしくは老年期にある人を対象として、看護実習を展開します。患者およびその家族が病みの軌跡と共に生活する過去、現在、未来を把握し、その人を包括的にとらえ、必要な看護支援を見出す実習になります。熟考しながら進める実習になりますので、心身ともに学習準備をして臨んでください。

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェSSIONAL					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者としての態度、習慣、価値感を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	同上
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践でき

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		ることが単位認定の要件である
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の場に知識を応用でき

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		ることが単位認定の要件である。
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					

(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 看護の実践
科 目 名： 母性看護学実習
(英語名称： Maternity Nursing Practicum)

【担当教員】 山口咲奈枝、石井佳世子、大内美奈

【開講年次】 3年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 実習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 60時間

【概要】

母性看護の理念をふまえ、マタニティサイクル(妊娠・分娩・産褥・新生児の各期)にある女性とその家族に対するケアが実践できるための基礎的能力を養う。
助産師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- (1) 妊娠・分娩・産褥期及び胎児・新生児期の経過を関連づけて理解する。
- (2) 対象への関わりを通して対象が体験していることを理解する。
- (3) 対象の主体性を尊重したケアを実践する。
- (4) 家族メンバーの誕生がもつ意義を理解する。
- (5) 母子や家族をとりまく環境を理解する。
- (6) 対象の多様な価値観を理解する。
- (7) 必要なサポートシステムについて考える。
- (8) 母子ケアを行う際の倫理的課題について考える。
- (9) 母子保健チームにおける看護者の役割を理解する。

【テキスト】

母性看護学実習要項、配布資料

【参考書】

適宜

【成績評価方法】

実習評価表に基づき評価

【その他（メッセージ等）】

実習中の援助を通して、学内の講義や演習等では得られない創造的な発見や多くの感動を体験します。生命の誕生に立会い家族の新しい一員を迎えるプロセスに関わることは、一人の人間としても貴重な体験になります。

【授業内容(学習項目)】

臨地実習：県内3～5施設において実習をする。(10月～2025年1月)

- (1) 産褥早期の母子を受け持ち母子のケアを一部実践する。
- (2) 出生直後の児のケアを見学実習する。
- (3) 妊婦健康診査の関わりを通して妊娠期のケアを見学実習する。
- (4) 母親学級や小集団指導などの保健指導を見学実習する。
- (5) 機会があれば分娩期のケアを見学実習する。
- (6) 機会があれば退院後の産褥期・新生児期の健康診査を見学実習する。

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃

4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基礎となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。	
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。	
4. 知識とその応用				
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。				
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）	
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○ 模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目	
		③	論理的思考能力を高める科目	
		④	表現力を培う科目	
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○ 模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目	
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目	
		④	看護の基本となる科目	
		⑤	看護実践の基盤となる科目	
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	○ 模擬的な場に知識を応用できることが単
		②	看護の実践	

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		位認定の要件 である
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を 実践することができる。					
1)	人々のニ ーズに基づ いた看護の 実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることが できる。	◎	看護の一部と して実践でき ることが単位 認定の要件で ある
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにす るために、必要な情報を収集し、アセスメ ントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既 存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサー ビスのネットワーク化、システム化の重要 性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護 専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明で きる。					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名：看護の実践

科 目 名：老年看護学実習

(英語名称：Gerontological nursing practicum)

【担当教員】 齋藤史子、坂本祐子、杉本幸子

【開講年次】 3年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 実習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 60時間

【概要】

加齢による生理的变化と健康問題を抱える高齢者を身体的・心理的・社会的・霊的側面から理解し、高齢者の健康の維持・回復、生活の質（Quality of life）の維持・向上を目指した看護実践を行う。また、在宅療養に向けて、あらゆる健康レベルの高齢者とその家族が必要としている支援について理解し、多職種と協働する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

1. 高齢者に積極的な関心を寄せ、尊重した態度で接することができる。
2. 高齢者の生活史、価値観、生活スタイルを統合し、高齢者を理解できる。
3. 健康問題を抱える高齢者を加齢に伴う身体的・心理的・社会的・霊的側面から理解する。
4. 入院治療を受けなければならない高齢者にとって、生活環境の変化が、健康状態や日常生活行動に及ぼす影響を理解できる。
5. 高齢者のもてる力に着目し、QOLの維持・向上を目指した看護目標・計画・実践・評価をすることができる。
6. 高齢者の在宅療養に向けた課題を把握し、高齢者とその家族が必要としている支援について考えることができる。
7. 施設で暮らす高齢者の生活を把握するとともに施設における看護専門職者の役割を理解することができる。
8. 実習を通して自己の高齢者観を深めることができる。

【テキスト】

1. 北川公子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護第9版 医学書院
2. 鳥羽研二 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論 第5版 医学書院

【参考書】

1. 山田律子 他：生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図、4版 医学書院
2. 堀内ふき 他：ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 第7版 メディカ出版
3. 堀内ふき 他：ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 第6版 メディカ出版
4. 奥野茂代 他：老年看護学 概論と看護の実践 第6版 スーヴェルヒロカワ

【成績評価方法】

実習時間の5分の4以上の出席をもって単位認定とする。実習目標の達成度、実習中の態度、カンファレンスへの参加状況、実習記録、レポート、事前課題をもって行う。

【その他（メッセージ等）】

高齢者の生活歴や取り巻く環境に関心を持ち、対象理解を深めましょう。また、高齢者のQOLの維持向上を目指した看護実践を行うために、加齢による生理的变化や健康問題について復習を行い、実習に臨みましょう。

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナル			
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。			
1)	看護倫理	① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎
		② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。	
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎
		② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		示せることが単位認定の要件である
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		

3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	習得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	習得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		

		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せことが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示

		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	せことが単位認定の要件である
--	--	---	-------------------------------------	----------------

区分名： 看護の実践
科目名： 小児看護学実習
(英語名称： Child Health Nursing Practice)

【担当教員】 和田 久美子、古溝 陽子、鈴木 学爾、その他

【開講年次】 3年次 【学期】 後期 【必修/選択】 必修

【授業形態】 実習 【単位数】 2単位 【時間数】 60時間

【概要】

健康障害をもつ子どもと家族のおかれている状況を理解し、個々の発達段階を健康レベルに応じた援助ができるための能力を育む。健康障害を持つ子どもとその家族のアセスメントの実際について学習するとともに、それに基づいてケアの計画を立案し、子どもとその家族に対して必要な看護援助を行う。当科目は、看護師としての実務経験のある教員が担当する。

後日、詳細を提示する。

【学習目標】

- 1) 対象とする子どもとその家族に対し、看護者としての積極的な関心をよせながら、対象者との相互作用を通して、対象を深く理解する。
- 2) 看護の一連のプロセスを踏む中で、子どもとその家族に対して援助を行う。
- 3) 健康障害をもつ子どもとその家族の現状を理解し、小児看護の役割を考える。
- 4) 看護専門職者としての、自己のあり方を考える。

【テキスト】

随時提示する。

【参考書】

随時提示する。

【成績評価方法】

実習への参加態度、実習記録およびレポートを総合して評価する。

【その他（メッセージ等）】

「小児看護学Ⅰ・Ⅱ」など、小児のケアに関連する内容について復習して臨んで下さい。

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習				
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。				
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○ 基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。	
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション				
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。				
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎ 看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。	
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。	
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。	
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎ 看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。	
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。	

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

5. 看護の実践				
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。				
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎ 看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。	
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。	
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。	
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。	
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。	
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。	
6. 地域社会への貢献				
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>				

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 看護の実践

科 目 名： 精神看護学実習

(英語名称： Nursing Practice for Psychiatric Patient)

【担当教員】 佐藤 利憲、田村 達弥、大川 貴子

【開講年次】 3年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 実習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 90時間

【概要】

精神の健康上の問題のために生活を行ううえで困難を抱えている人を対象に、セルフケアの視点からその人を包括的に捉え、その人のストレングスを活かし、リカバリーを目指す援助のあり方を検討する。また、精神の健康障害をもつ人と関わるプロセスを通して自分自身を見つめながら、その人への関心を持ち続け、関係を築いていくことを目指す。

尚、この科目は看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- 1) 精神の健康障害をもつ人と場をともにすることができる。
- 2) 精神の健康障害をもつ人との関わりの中で自分自身をみつめることができる。
- 3) 関わりの中で生じた精神の健康障害をもつ人の反応を捉えることができる。
- 4) 現在に至るまでのプロセスをふまえながら、精神の健康障害をもつ人を理解することができる。
- 5) 精神の健康障害をもつ人の疾患について理解することができる。
- 6) 精神の健康障害をもつ人が自分の状況をどのように受け止めているのかを理解することができる。
- 7) 精神の健康障害をもつ人が自身の「これから」についてどのように思い描いているかを知ろうとしながら関わるすることができる。
- 8) 精神の健康障害をもつ人のセルフケアについて、その人の力に焦点を当てながらアセスメントすることができる。
- 9) セルフケアのアセスメントに基づき、その人のストレングスを活かし、リカバリーを目指した援助を考えることができる。
- 10) 精神の健康障害をもつ人が地域で生活する上で必要となるサポートについて考えることができる。

【テキスト】指定しない

【参考書】指定しない

【成績評価方法】

実習での患者との関わる様子、カンファレンスでの発言内容、記録の内容、および、目標に対する学生の自己評価を踏まえ、目標に対する到達度で評価する。

【その他（メッセージ等）】

精神の健康上の問題をもちながら生活を送っている方々に関心を向けながら関わり続けることで、皆さんの中に様々な疑問や気付きが生まれてきます。こうした、実習を通して皆さんが体験すること全てが学びの源泉です。患者さんなど実習の場で出会った方々と向き合うだけでなく、自己とも向き合いながら、学んでいきましょう。

【授業内容(学習項目)】

実習初日は、精神障害者が利用している福祉施設にて実習を行い、地域での生活体験について理解をする。

実習 2 日目より精神科の病棟にて 1 名の患者を受け持ち、患者に関心を向けながら関わるプロセスの中で、患者のリカバリーを視野に入れながらセルフケアについてアセスメントし、必要な援助について検討していく。

実習最終日は、学内カンファレンスを行い、他の施設で実習を行なった学生と共に、学びを深めていく。

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	臨床の場で看護師としての

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	臨床の場で看護師としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	臨床の場で看護師としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	臨床の場で看護師としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示すこと
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		

		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		が単位認定の要件である。
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示すことが単位認定の要件である。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示すことが単位認定の要件である。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	実践の場で問題解決に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づい	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場で実践できることが単

	た看護の実践	②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		位認定の要件である。
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない。

		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		